

液化炭酸ガス気化方式を用いた CO₂ 局所施用による増収効果

利用対象：栽培規模 1 ha 以上のトマト生産者

トマト栽培における CO₂ 施用について

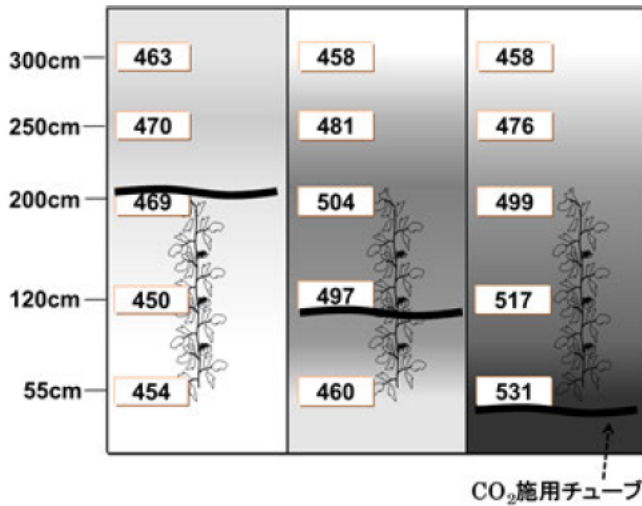
★ハウス内の CO₂ 濃度を人為的に高めて光合成を促し、収量を増加させる技術です。

結果の概要

★液化炭酸ガスは低位置から施用することで、換気条件下においても群落周囲の CO₂ 濃度を効果的に高められます。

★液化炭酸ガス気化方式は、換気の盛んな高温期においても CO₂ 施用が可能で、8 ~ 25 % 増収効果が期待できます。

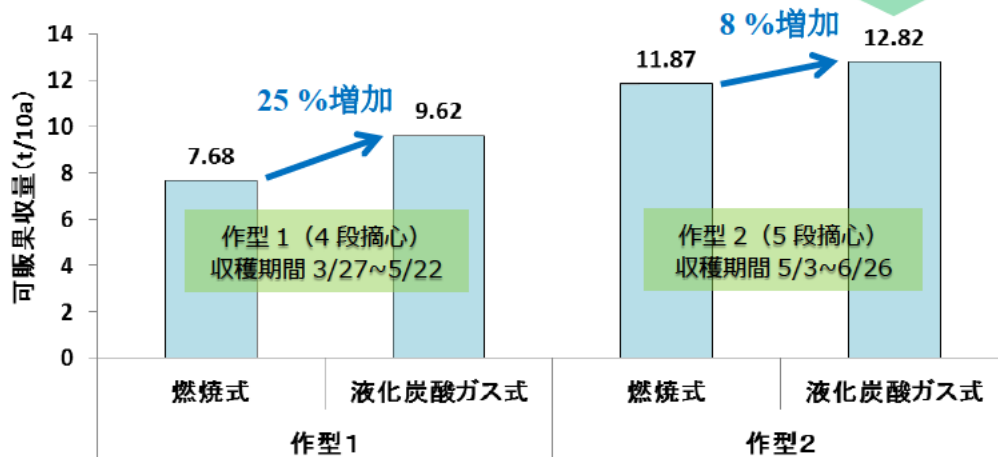
★小規模では、灯油を燃焼する慣行方式と比べ、ランニングコストが高くなるため、液化炭酸ガスを安価に購入できる大規模施設(1ha 以上)に適しています。



天窗開放時は低位置からの局所施用が効果的です！

※CO₂ 施用位置は、
左から順に、地上 200cm、120cm、55cm。
※数値は、各地上高における CO₂ 濃度 (ppm)
※色の濃さは CO₂ 濃度を反映
※試験は天窗開放時に実施

液化炭酸ガス気化方式は、換気の盛んな高温期でも増収効果が期待できます！



高温期における液化炭酸ガス式による増収効果の実証

※品種：CF 桃太郎ヨーク、低段密植栽培（栽植密度 5,500 株/10a）

お問い合わせ先	野菜園芸研究課 太田雄也、磯崎真英 中央農業改良普及センター 清水秀巳	電話 0598-42-6358 電話 0598-42-6323
参考になる資料	三重農研HP: http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/KenSeika/index.htm	